

釧路湿原自然再生協議会再生普及小委員会

行動計画ワーキンググループ(第24回)

議事要旨

平成25年4月23日(火) 18:00~20:00

釧路地方合同庁舎4階 共用第3会議室

【出席者(敬称略)】

行動計画ワーキンググループ構成メンバー

<個人(所属)>

- ・ 君塚孝一(有)自然文化創舎オホーツク知床リサーチワークショップ)
- ・ 清水信彦
- ・ 新庄久志(釧路国際ウェットランドセンター主任技術員・環境ファシリテーター)

<団体(出席者)>

- ・ 釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会(鈴木久枝)
- ・ こどもエコクラブくしろ(近藤一燈美)

<再生普及小委員会 委員長>

- ・ 高橋忠一

<関係市町村(出席者)>

- ・ 標茶町企画財政課(中島吾朗)

<関係行政機関(出席者)>

- ・ 環境省北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所(西山理行、大林圭司)
- ・ 国土交通省北海道開発局釧路開発建設部治水課(市川嘉輝、稲垣達弘)
- ・ 林野庁北海道森林管理局釧路湿原森林ふれあい促進センター
(網倉和弘、重光秀人、川淵義昭)
- ・ 北海道教育庁釧路教育局教育支援課(清水秀紀)

<オブザーバー(出席者)>

- ・ 釧路総合振興局釧路建設管理部事業室治水課(曾我部守嗣)
- ・ 環境省北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所(畠中寿明)
- ・ ワンダグリーンダ・プロジェクト応募者(伊勢志郎)

環境教育ワーキンググループ事務局

- ・ 環境省北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所(高見沢敏男、竹中康進)
- ・ 公益財団法人北海道環境財団(久保田学、山本泰志、清水美希)

【議事概要】

〈事務局〉 第 24 回行動計画ワーキンググループ（以下「行動計画 WG と表記」）を開催する。新年度となり初めて参加する委員の方もいるため、最初に簡単に自己紹介を行う。（参加者全員自己紹介）（配布資料確認）
〈事務局〉 進行を新庄座長にお願いする。

議事1 2012 年度再生普及行動計画ワーキンググループの取組み報告

議事2 ワンダグリンド・プロジェクト 2012 活動報告

議事3 ワンダグリンド・プロジェクト 2013 の応募状況について

（以下、座長による進行）

〈座長〉 議事 1 について事務局より説明を求める。

〈事務局〉 資料 1 に基づき説明。本行動計画 WG は釧路湿原自然再生協議会の中の 1 つの小委員会である再生普及小委員会の下に設置されているワーキンググループである。主に自然再生の普及や市民参加を進める行動計画の促進を行う目的から活動している。資料 1 に基づき説明。前回の行動計画WGからの活動を紹介する。ワンダグリンド・プロジェクト 2012 参加者への活動支援を行い、現在は応募のあった 50 団体・個人 74 取組の報告書の作成をしている。ワンダグリンド・プロジェクト 2013 の活動募集をチラシ・ポスターにて行った。随時募集中でありお声かけいただきたい。湿原のより深い部分を知ってもらうフィールドワークショップを新庄座長案内のもと行った。土砂流入対策の行われる久著呂川を歩き、冬ならではの湿原を体験した。情報発信・普及活動の拡充では再生普及行動計画のホームページを全面改良した。ホームページアドレスは変わらないので是非見ていただきたい。メールニュースの配信は 367 箇所、推進サポーター44 箇所となった。新しく始まった幌呂地区の湿原再生のパネルの作成をした。イベントに出向き釧路湿原の情報発信を行った。自然再生の参加の機会づくりには行動計画WGでは力を入れている。自然再生現場に地元の方に行ってもらい、自然再生を知ってもらう取組で昨年度、幌呂地区で 2 回行った。

資料 2 に基づき説明。★印が昨年度の新しい取組である。ワンダグリンド・プロジェクト間の横のつながりが目的での交流座談会を行った。後程議論するが「釧路湿原の自然再生に参加しよう！」への参加の呼びかけを行った。資料 2-1 はワンダグリンド・プロジェクト 2012 の取組一覧である。資料 2-2 はワンダグリンド・プロジェクト 2012 報告書の作成概要である。報告書の発行は 6 月を予定している。資料 2-3 はワンダグリンド・プロジェクト参加者にアンケートで意向を伺い、13 個人・団体の回答が得られた。

資料 3 に基づき説明。ワンダグリンド・プロジェクト 2013 の応募は現在 51 団体・個人 78 取組である。この行動計画WG終了後、公開しPRしていく。新しい取組としては愛国幸恵町内会、品田忠さん、釧路マーシュ&リバーの参加があった。資料 3-1 がワンダグリンド・プロジェクト 2013 の取組一覧である。★が 2013 年度からの新規参加団体である。その他にも昨年と取組を変えての参加もある。これでスタートしたい。

〈委員〉 去年行った交流会は参加することで新しいつながりができ良かった。メールニュースの掲示場所はどのようなところか？

- 〈事務局〉わっとや遊学館のような公共施設や、美容院などに配付している。
- 〈事務局〉現在 44 カ所の推進サポーターで提示してくれている。ホテルや理髪、食堂等もある。数週間前にホテルの方が来られたときに照会したら、お客さんへのサービスにということで、メリットを感じてもらえた。
- 〈委員〉学校の掲示板には A3 に拡大して貼っている。
- 〈座長〉個人旅行で、観光地巡りだけではなく、こうした地域で行う環境保全に関するアクティビティに参加することを組み込んでいる人もいる。

議事4 2013 年度再生普及行動計画WGの活動予定(案)

- 〈座長〉議事4について事務局より説明を求める。
- 〈事務局〉資料4に基づき説明。ワンダグリンド・プロジェクト2013の活動を支援していく。参加者間の交流の促進を進めていきたい。フィールドワークショップは7月10日カヌーを使った達古武湖周辺を予定している。後日ご案内する。情報発信としてイベントへの出展もあるが釧路湿原の航空写真や再生事業実施計画紹介パネルは貸し出しをしているので使っていただきたい（HPを参照）。実施計画の概要版HPを作成し再生事業を分かり易く紹介していく。今年度重点をおいて取り組んでいく自然再生の参加の機会づくりでは「釧路湿原の自然再生に参加しよう！」についてはこの後議論するがワンダグリンド・プロジェクトの取組に各小委員会、実施計画ごとの取組もいれこみたい。自然再生事業の地元向け見学会では各事務局と調整しながら今まで行っていなかった土砂流入小委員会や水循環小委員会の取組を知ってもらおう機会をつくりたいと考えている。
- 〈座長〉業務が毎年増えきている。HPやインターネット関係の情報発信が多い。
- 〈委員〉交流会は今年も予定しているのか。評判がよかったのでやってみては。
- 〈事務局〉参加団体の交流促進の中に含まれている
- 〈委員〉私が提案して実現した。以前は報告書のお披露目を兼ねていた。その場で報告書を配った方が交流が深まる。
- 〈座長〉お披露目をかねた座談会をワンダグリンド・プロジェクト2012報告書の完成に合わせて6月にやっていく。
- 〈委員〉フィールドワークショップが7月10日ではヒシが出てないのでは。
- 〈事務局〉ヒシそのものは意識していなかった。
- 〈委員〉パラパラと生えてきている時期であろう。達古武川をさかのぼる予定であり、ヒシがあるとかえってつらい。
- 〈委員〉9月には湿原再生小委員会でヒシに関する行事を予定している。
- 〈座長〉資料4にあるようなことを行動計画WGやっていく予定でいる。この後の討論にも関わるが、自然再生への市民参加の場を作っていく。水循環の見学はどんなイメージか。
- 〈委員〉入り込む川や湧き水、出て行く川を一括りに水循環といっているのも特に現場というものはない。代表的な川や湧き水を見ることが現場見学会ことになるのではないか。

〈座長〉湧水であれば地元向けの見学会ができるのではないかな。

〈委員〉アキアジ沼はどうか。

〈座長〉丘陵地から十数本のわき水が入る。チルワツナイ川からも入り、また出て行く。

〈委員〉そこがよい。

〈座長〉魅力的な場所だが 30 分ほど歩く。湧き水自体は鶴居村、釧路町など、どこでもすぐ行けるところがある。

〈事務局〉水循環はモデル計算をしているが、専門的調査を市民に伝えられるとよい。

〈事務局〉自然再生ブログのシステム管理をしているが、メールを送るのと同じ要領でアップできる。事務局だと限界があるので、ここのみなさんで登録してもいい方がいれば、情報が充実する。みなさんにも記事を投稿していただきたい。現在は事務局が月 3 回更新しているが、WG メンバーのブログにしてはどうか。携帯でメールを打てる方は参加できる。

〈座長〉再生ブログを見たことあるか？

〈委員一同〉見たことない。

〈事務局〉自然再生のブログだが、湿原の今を伝えればよい。

〈事務局〉みなさんのアドレスを送っていただき、ブログの投稿者を登録する。

〈委員〉悪いことにはつながらないのか。

〈事務局〉なので、このメンバー限定で投稿できるようにする。

〈委員〉事務局だけではなくみなさんの情報を寄せるということ。

〈委員〉一度事務局に届けてからアップするフィルターをかませた方がいい。

〈委員〉事務局はずっと見てなければならぬのでは。

〈事務局〉一人書くより更新頻度が上がりいい。

〈事務局〉ブログ自体が知られていないので知ってもらおう努力もいる。

〈委員〉テーマは絞るのか。

〈事務局〉「湿原」のことならなんでもよい。

〈委員〉事務局に採否の権限を置いたほうがいい。

〈座長〉なりすましの可能性もあるので、採否は事務局が持った方がよい。

〈事務局〉ひとつだけルールを設けるとしたら、そこを議論の場としない、ということ。

議事5 市民参加イベント「釧路湿原の自然再生に参加しよう！」の促進について(検討)

〈事務局〉資料 5、昨年度のチラシを用いてに基づき説明。行動計画WGでは行動計画の柱の「自然再生に参加する、行動する」を重点的に進めており、現場の見学会を行ったり、昨年度は 6~8 月に自然再生への参加機会の集中広報を行った。昨年は市民参加に加え釧路のアイスホッケーチームの日本製紙クレインズにも参加してもらった。参加者アンケートで得た課題は、普段湿原に関心のない層の新しい参加は少なかった。また自然再生、保全にどのようにつながるが解りにくくイベントの趣旨がぼやけていた。(資料5 表面の下半分の枠内のおり) 今年も「自然再生に参加しよう！」イベントの集中PRを行うにあたり、成功するにどうするといいかご意見をいただきたい。今年も釧路湿原自然再生協議会の現場見学会もPRしていく。自然再生へ直接でき間接的つながり

を色分けして表示する。7～9月を集中期間としたい。(現時点での今年度の方針は資料5末のとおり。) 行動計画WGメンバーの視点、イベント主催の視点、参加者の視点でのご意見を願います。

〈座長〉広報の工夫と参加者への意識付けを検討したいということ。まず広報の方から考えてみたい。

〈委員〉今の湿原塾への出演以外にFMくしろでの宣伝はできないか。タイアップして枠を持ってないか。

〈委員〉大西先生とWGのメンバーで対談するということか？

〈委員〉それは今やっているの、他にできないか。

〈委員〉博物館や図書館も枠を持っている。行事のお知らせはよく放送している。

〈事務局〉CMのように繰り返し流せるとよい。

〈座長〉沖縄ではFMがたくさんあるが、出るにはお金を払っている。

〈委員〉FMくしろは意外と聴取率は高いようである。

〈委員〉今回愛国の町内会が入ってくれたが、全市ではなくそうした釧路湿原に興味のある町内会にだけに絞って案内し、参加を呼びかけてはどうか。

〈委員〉連合町内会に聞けば、各町内会の会長がわかる。連合町内会は釧路にひとつだが、その下には地区連がある。

〈委員〉ワンダグリンド・プロジェクトにせっかく入ってくれた町内会にうまく働きかけるとよい。

〈委員〉連合町内会が受けてくれれば、各町内会に流れる。

〈座長〉自宅にいる奥さん方はみてくれる。

〈委員〉回覧板で伝わる。

〈委員〉愛国幸恵町内会は今までなかった参加者ではないか。

〈事務局〉たまたま辻野さんが幸恵町内会に住んでいたのが実現した。

〈委員〉愛国でも町内会はたくさんある。

〈座長〉伊勢さんの町内会でもできるか？

〈委員〉班に分かれているので相当な枚数がある。

〈委員〉町内会に広く配付しても参加者の数が読めないのが心配である。

〈座長〉町内会にまず配付してはとの提案。それに加えて参加者をどう集約するかというのがもう一つの話である。

〈座長〉自然再生への参加の意識付けについてはどうか。

〈委員〉昨年参加したが、その取組が自然再生にどうつながっているのか解らなかった。主催者が自然再生との関わりを理解し、参加者に最初に伝えることが重要。特に間接的な取組について必要。ただ、間接的な取組自体は重要。再生事業が長く地元のものになるには、そうした自発的な取組が重要である。間接的な取組をインプットするためのキットを用意するのもいいかもしれない。直接の再生と間接の再生は混ぜてもよいが、説明はしっかりやった方がよい。

〈座長〉主催者から自然再生とのつながりや意義を伝える必要があり、そのためのキット

があるとよい、という話。以前、参加したイベントでその日の趣旨が書かれたボードを参加者に選ばせ、趣旨を伝えてた事があった。ある意味、我々自身が今後の意味をディスプレイするワークショップがあっても良いかもしれない。直接間接の関わりを分けなくても、それが認識できればよい。

〈委員〉事前に説明ができるのであれば直接か間接かに区分する必要はない。

〈座長〉二幸のまんじゅうが自然再生にどう関わるのかを説明する機会がある。

〈委員〉最初はまんじゅうでもクッキーでも湿原に関わればなんでもいい、という話だった。

〈事務局〉二幸は湿原が国立公園であること等をお菓子の説明に加えている。湿原がはいってればなんでも、というわけではない。短大のクッキーも売り上げの一部を協議会に寄付している。

〈委員〉今年の「自然再生に参加しよう！」にはオオハンゴウソウの防除は入っているのか。

〈事務局〉これから募集する。オオハンゴウソウ防除のイベントが入ってよい。

〈委員〉町内にも咲いているが、「きれいだ」といって見ている。説明するとわかってくれるが、一般の人への参加を呼びかけるとよい。

〈座長〉説明が必要。

〈事務局〉団体のネットワークづくりには難しい面もある。広報してくれるなら参加するというものもあるが、自分の団体の行事で外からの要請による説明等はいやがる場合も多い。そうした説明を広報の条件にするくらいハードルを上げた方がいい。

〈座長〉姿勢として再生事業への意味づけを条件とする（ハードルは上がる）か、こちらで味付けをする工夫、努力が必要である。

〈委員〉最初から条件をつけるとハードルがあがる。

〈委員〉応募する人は関係があると思うから手を上げるわけで、宣言してもらっただけでいい。

〈事務局〉内輪だけでやっていたことに一般の参加者を初めて受け入れたので不慣れな団体もあり、参加者への説明不足となった。今回は参加者へ趣旨を伝えるよう、こちらからインプットすることもできる。

〈座長〉せっかく参加してくれた活動なので、事務局で味付けをするとよい。

〈事務局〉チラシ上で何が自然再生かを宣言してもらっては？

〈座長〉参加団体に要求すると引くのでは。こちらから相の手をさしのべればよい。

〈委員〉現場で整備している立場からはどう広報していけばよいか難しい。アドバイスをいただきながら進めていきたい。

その他

- ・資料 4-1 は、今年度のワンダグリンダのスケジュール。
- ・事務局より環境教育WGの学習資料の紹介。
- ・釧路開建治水課より、釧路湿原川レンジャーの募集、活動について紹介。

〈委員〉 7月 6～7 日にラムサール条約 20 周年の記念行事を聞くが、スペースをいただくことはできるのか？

〈事務局〉 本日欠席の菊地さん（釧路国際ウエットランドセンター）が検討している。

〈座長〉 当時のラムサール条約の事務局長、委員長、関係者が来てシンポジウムをやって聞いている。ラムサールセンターのこどもサミットの話も聞いているが、具体的にはわからない。

〈委員〉 そうしたところには是非参加する機会を設けて欲しい。先日、防衛大臣の佐藤政務官にワンダグリンダ・プロジェクトのチラシを渡したら、とても良いことをやっていると言ってくださった。

〈事務局〉 ワンダグリンダのキャラクターを生物多様性応援団のキャラクター登録する。

〈事務局〉 以上をもって、第 24 回行動計画 WG を閉会する。

以上